

牧師室から（2022.7.3）

今まで主に妻と私で両親の生活を助けてきたが、1週前にニュージーランドから一番下の弟が一時帰国して、両親の様子を見に来て手伝ってくれている。父の人格も段々崩れてきており、大変になってきたのでとても助かっている。週末にはすぐ下の弟家族も訪問してくれている。兄弟が色々補い合って、何とか頑張っている。弟たちとも話をしたのだが、親の介護をしていて、その言動がおかしくなったり、体が弱くなったりすることによっても、それらからしみじみと教えられることが多いということである。若い時には支えられてきたが、ある程度の年になって、逆に支える立場になってもむしろ教えられることが多いのは、年をとっても相変わらず親であるからだというのが共通の意見であった。

若い時に、私が人間を深く理解したいと思って、あるカウンセラーに相談したことがあるが、その際に、先ず自分の親がどういう人か観察してみなさいとアドバイスを受けたことがある。その時は、親は単に身近にいて接することが多いからかなとも思ってみたが、それと同時に親がどのような人物かを理解することは自己認識には大切であるということも、少しわかったことがあった。

父は今まで調子よく話していたと思うと、突然笑いだしたり、怒ったり、泣き出ししたりする。その根底にある深い感情が何であるのかを考えさせられている。また支離滅裂、荒唐無稽のような話にも、何か真実なものが潜んでいる気がするのである。主の癒しと平安が与えられるようにと祈っている。

「あなたの父母を敬え。」（出エジプト記20：12、申命記5：16）

（鈴木淳一牧師）